経営計画 2025

自己変革　～かなえたい未来へ～

2025年5月8日
千代田化工建設株式会社

© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.

経営計画2025（2025~2027年度３ヵ年計画）の策定にあたり

「自己変革」～かなえたい未来へ～

当社は2019年3月期に経営危機後、グループ一丸となって再生計画に取組み、事業基盤の強化を図ってきました。再生計画前に受注した大型LNGプロジェクト含め略全ての損失処理を完了し、再生計画策定以降に受注したプロジェクトでの損失もなく、安定収益体質への転換に一定の成果を挙げることができたと考えています。

一方、2024年3月期決算において、大型プロジェクト中心の受注計画が思い通りに進まなかったり、大型プロジェクトの遂行過程における予測不能な事態の発生などによって、会社業績が大きく左右されるボラティリティの高い当社の収益構造を改めて強く認識するに至りました。これを踏まえ、次世代を担う社内有志を募り、全社的な活動として、我々が10年後に目指すべき将来像、またその実現に向けたアクションプランを徹底的に議論し、「10年の計」として取り纏めました。
この経営計画2025は、その「10年の計」をベースとした今後3年間のアクションプランであり、その中核をなすテーマは「自己変革」です。

第一に安定収益構造の盤石化です。まずは米国及びカタールの大型LNGプロジェクトの完工に注力します。当社のプロジェクトマネジメント力強化の観点からも重要であり必ず成し遂げます。また、海外案件の取り組み方改革を進めます。今後の海外新規プロジェクトに関しては、大型への依存度を下げ、1件あたりのエクスポージャーを抑え、多様なプロジェクトを手掛けながらボラティリティを低減する一方、安定した国内案件の収益基盤をより一層充実させることによって、盤石な安定収益構造の実現を目指します。

第二に収益の多様化です。当社を取り巻く事業環境は、地政学リスク、気候変動、人口動態の変化、劇的な技術革新などのメガトレンドの影響を受け、めまぐるしく変化しています。事業機会は実に多様化しており、「エネルギーと素材」、「ライフサイエンス」を始め、我々が活躍できる機会は大きく広がっています。これまで当社の収益の大半はいわゆるプラント建設（EPC）によるものでしたが、今後はこれらの分野で、より早い段階から顧客の事業構想や技術開発に伴走し、「事業共創」を実現させるパートナーとして機能発揮し、EPCに加え、その前段での企画・コンサル機能や、後段での操業支援など価値提供の幅を広げていきたいと考えています。

更に、そうしてお客様との強固な信頼関係を構築することで、将来的にはお客様との共同事業者のポジションに立てるような高みまで目指したいと考えています。

この自己変革を成し遂げ、強固な安定収益基盤の実現と、収益多様化の将来像を示すことによって、当社の企業価値向上を図り、再生計画スタート時に資金支援を受けた優先株あるいは劣後融資などへの対応に早期に目途をつけ、同時に、成長戦略を着実に進めていきたいと考えています。

この自己変革の実現にあたり最重要なのは人財です。

お客様との共創を第一に、これからの当社の国内外の各事業の中心となり且つ、自己変革をリードしていける人財を育成し、若手・中堅社員も取り込んだ強固で分厚い中核人財層の形成に注力してまいります。

皆さま、これからの千代田化工建設グループに
是非ご期待下さい。

代表取締役社長CEO
太田光治

© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.

千代田化工建設グループのパーパス・ミッション・マテリアリティ

時代によって変わり続ける社会の“かなえたい”を実現可能な構想として描き、
同じ想いを共有するステークホルダーと共に、社会課題を解決していく。

パーパス

社会の“かなえたい”を共創（エンジニアリング）する

ミッション

総合エンジニアリング企業として、英知を結集し研鑽された技術を駆使して、
エネルギーと環境の調和、健やかで豊かな未来を目指して事業の充実を図り、
持続可能な社会の発展に貢献します。

マテリアリティ

E 環境

環境負荷
低減社会の実現

S 社会

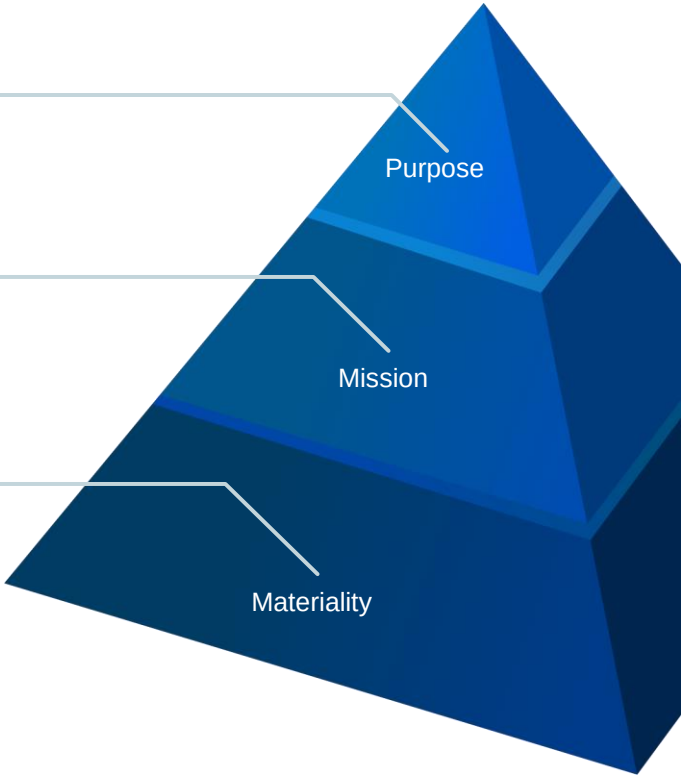
豊かで健やかな
生活の実現

多様な人財が
価値創出に
チャレンジできる
組織風土の実現

社会課題に
自律的に取組む
人財の創出

G ガバナンス

公明正大な
企業運営



© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.

目次

1 再生計画の振り返り P04

2 経営計画2025から10年後の目指す姿へ P05

3 経営計画2025（3ヵ年）で成し遂げること P06

- 重点取組 1 海外既存大型プロジェクトの着実な遂行
- 重点取組 2 海外プロジェクト取り組み改革（受注方針）
- 重点取組 3 国内プロジェクトの収益拡大
- 重点取組 4 事業共創の拡充
- 重点取組 5 分厚い中核人財層の形成

4 事業環境／事業領域 P12

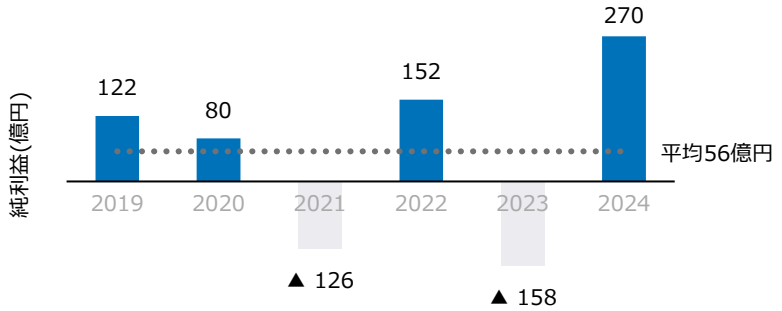
© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.

再生計画の振り返り(2019～2024年度)

定量は未達。 但し、将来のダウンサイドリスクを低減。 安定収益基盤確立が継続課題。
定性はほぼ達成。

定量項目

	目標	実績
受注高	■ LNG・ガスプロジェクト： 2,000~4,500億円規模 ■ 地球環境プロジェクト： 1,000~1,500億円規模	■ LNG・ガスプロジェクト： **2,187億円** ■ 地球環境プロジェクト： **1,310億円**
純利益	安定的に100~200億円・ 5か年累計900億円・平均180億円	**▲158億円～270億円、 6ヵ年累計339億円・平均56億円**



定性項目

リスク管理	■受注時のリスク管理を徹底 ■再生計画期間中の受注案件での赤字ゼロ
EPC遂行	■建設機能のKPI管理体制の強化 ■AWP*1・SMS*2による建設管理能力の高度化
人財	■適正な稼働率管理と人財配置の実現 ■人財開発の土台の再構築
ガバナンス	■経営・従業員へのガバナンス強化 （社外取締役の比率増、内部統制・コンプライアンス委員会設置）
事業ポートフォリオ	■脱炭素・ライフサイエンス分野のEPC*3受注拡大 ■Non-EPC事業*4の定量成果は道半ば

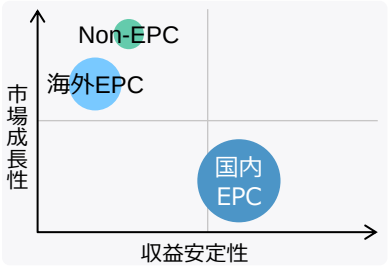
*1 AWP: Advanced Work Packaging（米国Construction Industry Institutionが提唱するプロジェクト管理手法のベスト・プラクティス）
*2 SMS: Subcontract Management System（工事会社との契約管理システム）
*3 EPC : Engineering, Procurement, and Construction（設計、調達、建設）
*4 Non-EPC事業：触媒・ライセンス・受託研究開発・デジタルサブスクリプション・事業投資 等

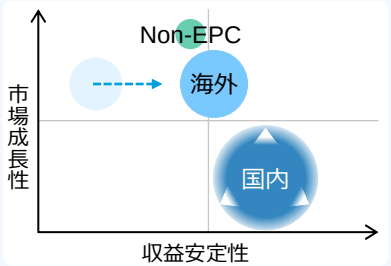
© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.

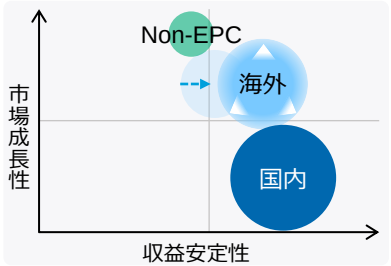
経営計画2025から10年後の目指す姿へ

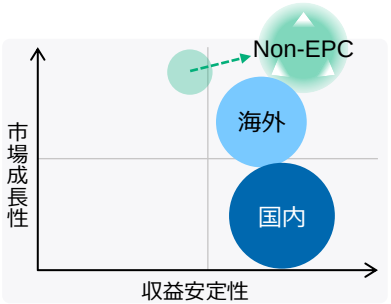
3年間は収益安定化・多様化を最優先。2028年以降、成長軌道へ。
10年後、連結純利益300億円を達成。さらなる高みへ。

2019-2024 再生計画	2025-2027 経営計画2025	2028-2034	10年後以降
純利益 平均 56億円	平均 150億円 (内、Non－EPCの割合5%)	平均 200億円 (10%)	300億円へ (20%)
大型プロジェクトへの集中 ■ 収益ボラティリティ大（４年黒字／2年赤字） ■ リスクマネジメント力向上	**自己変革 収益安定化/多様化へ** ■ 海外プロジェクトの取り組み改革 ■ 国内プロジェクトの収益基盤拡充 ■ Non-EPCの創出継続	**成長軌道への回帰** ■ 海外プロジェクトのポートフォリオ分散・リスク低減の実現 ■ 事業共創を確立し、Non-EPC収益化	**安定・高収益化へ** ■ 高収益化の実現 ■ 事業投資の収益貢献









：純利益(期間平均)イメージ

© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.

経営計画2025（3ヵ年）で成し遂げること

成し遂げること　**自己変革** ～収益安定化と多様化に向けて～

重点取組

1. 海外既存大型プロジェクトの着実な遂行
2. 海外プロジェクト取り組み改革（受注方針）
3. 国内プロジェクト収益拡大
4. 事業共創の拡充
5. 分厚い中核人財層の形成

エネルギーと素材、ライフサイエンス分野での
エネルギーと環境の調和、
健やかで豊かな未来の実現

定量目標

純利益

150億円（3年平均）

内Non-EPC純利益

10億円（2027年度）

関連指標

粗利率：10%以上（3年平均）
受注高：9,500億円（3年累計）
売上高：3,800億円（3年平均）
受注残：6,000億円（3年平均）

CHIYODA CORPORATION

© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.

重点取組 1　海外既存大型プロジェクトの着実な遂行

課題解決力、プロジェクトマネジメント力を最大限に活用し、既存大型プロジェクトを完遂。

	カタール・NFE LNG	米国・GPX LNG	【参考】2024年完工 インドネシア・銅製錬プロジェクト
基本情報 ①受注年　③パートナー ②顧客　④生産能力	① 2021年 ② Qatar Energy ③ Technip ④ LNG年産800万トン/年×4系列 (カタール国において、本プラント完成後、既設プラントと合計で約1億トン/年の生産量に到達) *1	① 2019年 ② Golden Pass LNG ③ McDermott ④ LNG年産520万トン/年×3系列	① 2021年 ② PT Freeport Indonesia ③ - ④ 鉱石処理量1.7百万トン/年
課題解決 **課　題**	鉄骨、配管工事の効率化	労働力不足・人件費上昇への対処	**6,000万Man Hour** **(約1.5年間、ピーク時従業員 約2.3万人)** の**無災害**を達成
解決策	➡鉄骨架構にラザニア工法*2を採用し、効率化、工事安全性も向上	➡配管溶接工程の**約80%**を域外で完了	
プロジェクトマネジメント	AWP導入による工事効率化（タイムリーな設計情報共有・資機材納入） 4Dモデル活用による作業効率向上（工事進捗・ワークフロントの可視化）		プロジェクト・マネジメント力の発揮 （顧客・協力会社とOne Team化、記録的な短納期化実現。現地調達規制対応で**現地企業30社を起用。**）

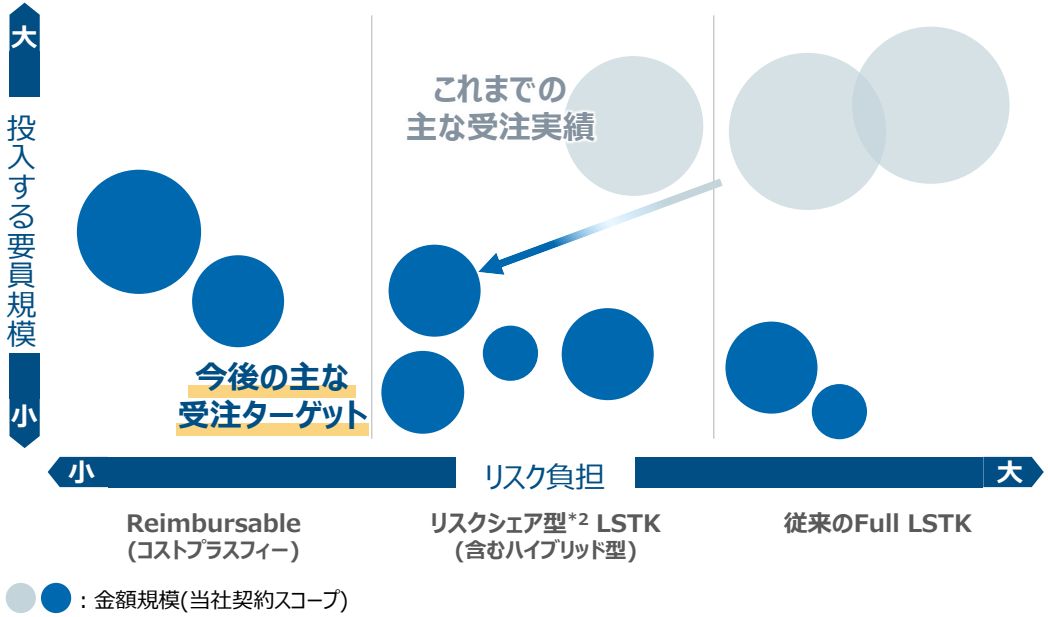
*1 世界のLNG貿易量(2023年): 約4億トン(独立行政法人 エネルギー・金属鉱物資源機構 石油・天然ガス資源情報)
*2 ラザニア工法: 構造物下層から鉄骨据付と配管スプール設置を交互に繰り返しながら、上層へ組み上げる工法

© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.

重点取組 2　海外プロジェクト取り組み改革（受注方針）

海外大型EPC依存から脱却し、分散の効いたポートフォリオ、プロジェクト選別可能な体質へ。
多様化する顧客ニーズにも対応。

海外プロジェクト受注ターゲットのイメージ



方　策

- **1プロジェクト当たりの当社リスク抑制・分散**
  （パートナーとのリスクシェア等）
- **LNGプロジェクトへの新たな取り組み方を追求**
  （超大型LSTK*1案件以外への取り組み、当社の強みであるプロセス設計に特化した提案等）
- **リスク負担の徹底的な見直し**
  （地域・顧客特性に応じたReimburse契約など）

*1 LSTK：Lump Sum Turnkey（固定契約金額による一括請負）
*2 リスクシェア型：例：工事Lump Sumリスクの回避、パートナーとのリスクシェア、インフレ調整等

© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.

重点取組 3　国内プロジェクトの収益拡大

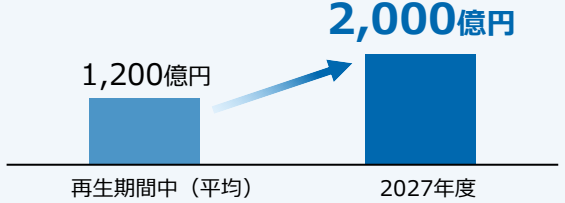
成長するライフサイエンス、脱炭素分野含め、旺盛な需要に確実に応える体制を構築。

強靭な事業ポートフォリオ

■ **幅広い分野の対応力を生かし、事業機会を早期に掴み取る**
- ライフサイエンスや脱炭素など成長分野の案件獲得強化
- 石油化学、先端素材、エネルギーマネジメントなどへ継続注力

■ **案件規模に依らない幅広い顧客層への価値提供**

目標受注高



受注体制の基盤強化

■ **プロジェクトマネージャー・エンジニアのマルチタレント化による対応分野の拡張**

■ **DX・設計標準化、設計拠点の活用強化による生産性の向上**

連結利益の極大化

■ **CXO*1と共にプラントライフサイクル全体へのサービス提供**

■ **CXOの取り組みにつき、事業分野及び顧客層共に拡充**

パートナーとの協業拡大

■ **協業・提携先と互いの強みを生かし、戦略的に対応力を強化**
(JFEエンジニアリング㈱、三菱重工業㈱ など)

■ **工事協力会*2・設計協同組合*3との連携維持・強化**

*1 CXO：千代田エクスワンエンジニアリング　（100%子会社　2023年４月に国内工事子会社3社を合併し設立）
*2 千代田工事協力会：主に建設工事に関わる協力会社により構成された組織
*3 千代田設計協同組合：主に詳細設計を委託する協力会社により構成された組織

© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.

重点取組 4　事業共創の拡充

事業共創のパートナーを目指し、事業・技術の開発から操業までより広範囲で顧客に伴走。

目指す姿　**事業共創のパートナー**
技術・知見提供、出資、人財の出向派遣等を通じて顧客の事業成長にコミット

社会実装	EPCコントラクター	操業支援
顧客の構想段階から事業化まで伴走支援	顧客要件（仕様・コスト・期間）を満たす設備を納入	設備保全のみならず操業における価値向上を支援
技術開発・事業開発	実証～商業化	事業運営

事業共創の基盤と強み

技術開発基盤
技術開発力・統合力
（研究開発センターでの触媒・プロセス開発など）

共創のネットワーク
多様なステークホルダーを繋ぎ、共創、最適化する力

豊富なEPC実績
エンジニアリング、プロジェクトマネジメント、DX
（60カ国・ 300プロジェクト超）

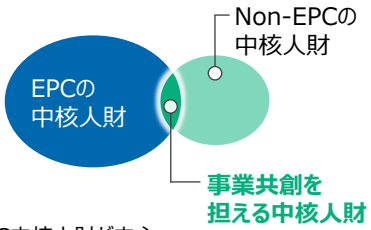
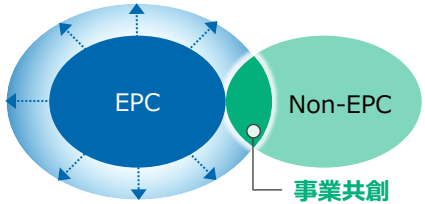
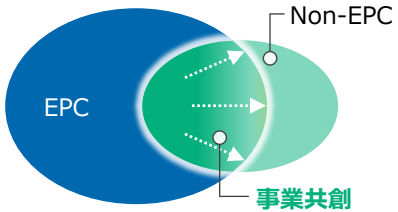
© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.

重点取組 5　分厚い中核人財層の形成

収益の安定化と多様化のための自己変革を達成すべく、事業の中核人財を拡充。

中核人財　**～自ら社会課題を特定、社内外との共創をリードし、より高い付加価値と収益獲得を実現できる人財～**

中核人財の拡充イメージ

再生計画	経営計画2025	10年後
		
■ EPC中核人財が中心 ■ Non-EPCの人財を拡充	■ 顧客の多様化するニーズに応えるため、EPC中核人財を拡充 ■ 事業共創の拡充に向けたNon-EPCの中核人財育成	■ EPC・Non-EPCの知見を合わせ持ち事業共創を担う中核人財を拡充

主な施策

専門教育の確立	事業リーダー・組織長への抜擢・登用	国内外・組織横断ローテーション	他社・異業種への越境経験	外部人財の獲得

人財開発の基盤

人財開発基本方針

自由闊達な組織風土　挑戦し続ける誇りと情熱　しなやかなマインドセット

© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.

事業環境／事業領域

外部環境の不確実性が増す中、安定化に注力しつつ強みを活かし事業機会を創出・獲得。

社内外環境

メガトレンド

世界の多極化　地政学リスク　気候変動　人口動態の変化　生成AI他技術革新

×

コア・コンピタンス

- 技術開発力と技術を目利きする力
- 課題を解決するエンジニアリング力
- 全体最適を実現するプロジェクトマネジメント力

事業機会

- エネルギー安定供給の確保
- 中長期的な脱炭素トレンド
- 循環型社会構築
- 先端素材安定供給の確保
- 高度医療社会への期待
- 産業基盤の維持・更新

事業領域

エネルギーと素材

- **LNG/石油・石油化学**
- **脱炭素ソリューション**（水素・低炭素燃料、CCUS*1、エネルギーマネジメント）
- **金属・先端素材**

O&M-Xソリューション *2

ライフサイエンス

- **医薬品**
- **細胞培養・植物バイオ**
- **産業設備**（食品・宇宙等）

*1 CCUS: Carbon dioxide Capture, Utilization / Storage
*2 O&M-X: Operation and Maintenance Transformation

© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.

事業領域①　エネルギーと素材

LNG、石油・石油化学での豊富な実績、技術と知見を活かし、脱炭素・先端素材分野にも拡充。

エネルギーと素材分野での強み

- 実績に裏打ちされたEPC コントラクターとしての 知見・顧客基盤
- プラントの 開発・スケールアップに 必要な技術と知見
- 設備保全の高度化支援・ 解析・診断技術

BP Berau向け
液化天然ガスプラント

北海道北部風力送電株式会社向け
蓄電池システム

展開する領域

LNG（含むCleaner LNG）、
石油・石油化学

脱炭素
（水素、低炭素燃料、CCUS、
エネルギーマネジメント等）

金属・先端素材
（非鉄金属製錬、蓄電池・半導体材料等）

O&M-Xソリューション

© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.

事業領域②　ライフサイエンス

医薬品プラントでのEPC実績と知見を活かし、バイオ・ライフサイエンスソリューションプロバイダーへの成長。

ライフサイエンス分野での強み

- 培養領域（抗体・細胞）の
  プロセス開発・スケールアップ知見
- 合成領域の連続生産・
  固相/液相法への知見
- ISS*の実証試験装置開発
- 設備保全の
  高度化支援・解析・診断技術

子安リサーチパーク

塩野義製薬㈱向け
ワクチン原薬製造設備

展開する領域

医薬品・食品
（低・中分子、高分子、微生物、細胞医薬他）

製法開発受託等
（細胞培養・植物バイオ）
（宇宙・低軌道プラットフォーム）

O&M-Xソリューション

*ISS：International Space Station（国際宇宙ステーション）

© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.

Appendix

サステナビリティ経営 P16

人的資本経営 P17

人財開発基本方針 P18

事業共創の拡充に向けた取組み方針 P19

事業環境／事業戦略
- エネルギーと素材（LNG、石油・石油化学） P20
- エネルギーと素材（脱炭素ソリューション） P21
- エネルギーと素材（LNG＋脱炭素） P22
- エネルギーと素材（金属・先端素材） P23
- ライフサイエンス P24
- O&M-Xソリューション P25

全社DXで目指す姿 P26

© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.

サステナビリティ経営

各マテリアリティに対して、事業活動を通じてその実現や課題解決に貢献。

	E（環境）	S（社会）			G（ガバナンス）
マテリアリティ	**環境負荷低減社会の実現**	**豊かで健やかな生活の実現**	**多様な人財が価値創出にチャレンジできる組織風土の実現**	**社会課題に自律的に取組む人財の創出**	**公明正大な企業運営**
主要テーマ	■ GHG排出量削減による気候変動の抑制 ■ クリーンエネルギーの安定供給 ■ 循環型バリューチェーン構築	■ ライフサイエンスソリューション提供による人々の健やかな営みへの貢献 ■ 持続可能な産業基盤の構築 ■ 全ての人々の人権を尊重	■ 価値観の多様化に対応した組織開発 ■ 組織風土変革をリードする組織経営者の世代交代の実践、教育 ■ ダイバーシティ＆インクルージョン ■ 健康経営の強力な推進 ■ 健全な労使関係	■ 事業の中核人財の拡充 ■ 業務遂行力を支えるOff-JTとOJTを組み合わせた専門教育の確立 ■ シニア層の更なる活躍の推進 ■ デジタル人財の育成	■ 公明正大で品格のある行動 ■ 公正な取引の推進と適切な情報開示 ■ サプライチェーンのリスク管理の徹底 ■ コンプライアンスとリスク管理の徹底
当社の取組み方針	■ LNGの脱炭素化をリードし、エネルギー安全保障への貢献 ■ CCUSや水素技術でカーボンニュートラルに貢献 ■ 蓄電池・再生可能エネルギーの導入・VPPに関与し、再生可能エネルギーの安定供給に貢献	■ 連続生産技術や事業投資により高度医療に貢献 ■ プラントO&M業務の変革を実現 ■ 脱炭素社会実現の鍵となる素材の安定供給に貢献 ■ 人権に配慮した事業運営	■ 当社の強みを“しなやかなマインドセット”のもと更に伸長させ、事業の変革に挑戦する中核人財を育成・拡充 ■ 人財と組織が共に“Well-Being”を目指し、価値創出に挑戦することでパーパスを体現すると共に、それを人財と組織に還元する持続的サイクルを構築		■ 公明正大で品格ある行動を旨として、コンプライアンス上の問題による企業価値の毀損を防止

© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.

人的資本経営

組織風土の変革と人財開発を通じてWell-Beingを目指し、当社の人財/組織と社会/ステークホルダーとの価値の循環を実現。

Well-Being実現の鍵

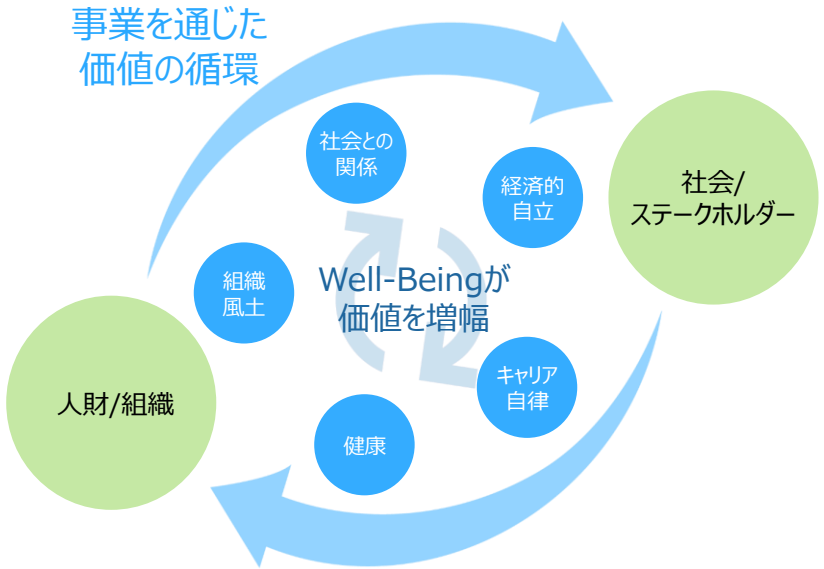
相互に尊重し、挑戦し続ける自由闊達な組織風土

- 価値観の多様化に対応した組織開発施策
- 組織風土変革をリードする組織経営者の世代交代の実践、教育
- ダイバーシティ＆インクルージョンのポリシー浸透、教育
- 健康経営基盤の更なる充実、戦略の強力な推進
- 健全な労使関係

誇りと情熱を持って社会課題に挑戦を続ける人財

- 事業の中核人財の拡充
- 業務遂行力を支えるOff-JTとOJTを組み合わせた専門教育の確立
- シニア層の更なる活躍の推進
- デジタル人財の育成

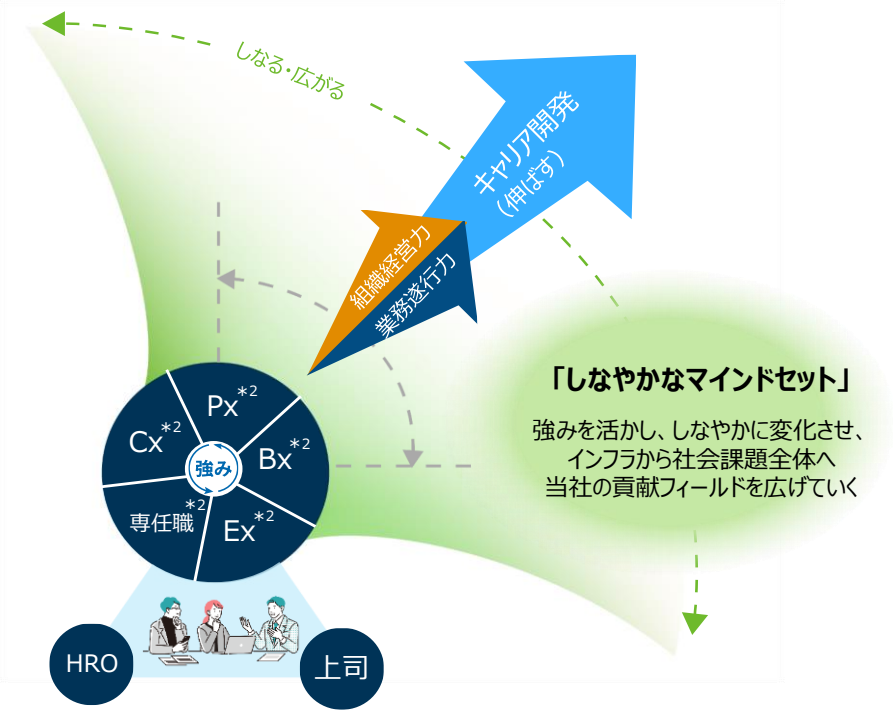
価値の循環



© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.

人財開発基本方針　~社員と会社が共に、キャリアを形成する~

HRO*1、上司、社員との対話を軸に組織経営力と専門領域の業務遂行力を伸ばし、“しなやかなマインドセット”で事業の変革に挑戦。



キャリア開発（伸ばす）

- HROが専門的見地から育成キャリアパスの策定を支援し、上司/社員との対話を通じた実践的なOJT（教育ローテーション等）により、
  『人財を伸ばすキャリアパスを整備し、計画的にプロを育む』
  『本人の意欲を重視しキャリアの自律を促す』
- 事業規模/領域ともに多様なフィールドでキャリアを積み、躍動を感じながら自身のキャリアパスを構築

組織経営力の開発（組織経営者の育成）
専門領域における業務遂行力の開発

本人の意欲と会社からの期待を重ね合わせ、専門領域における業務遂行力、組織経営力（組織経営者の育成）の開発を、キャリアパスと基礎/専門教育を連携させて開発

*1 Human Resources Officers、職種別の育成責任者を当社においては、HROと呼称
*2 Bx：ビジネスインキュベーション職、Ex：エンジニアリングプロフェッショナル職、Px：プロジェクトマネジメント職、Cx：コーポレートプロフェッショナル職
専任職：多岐に渡る当社組織の円滑なオペレーションを主体的に支える

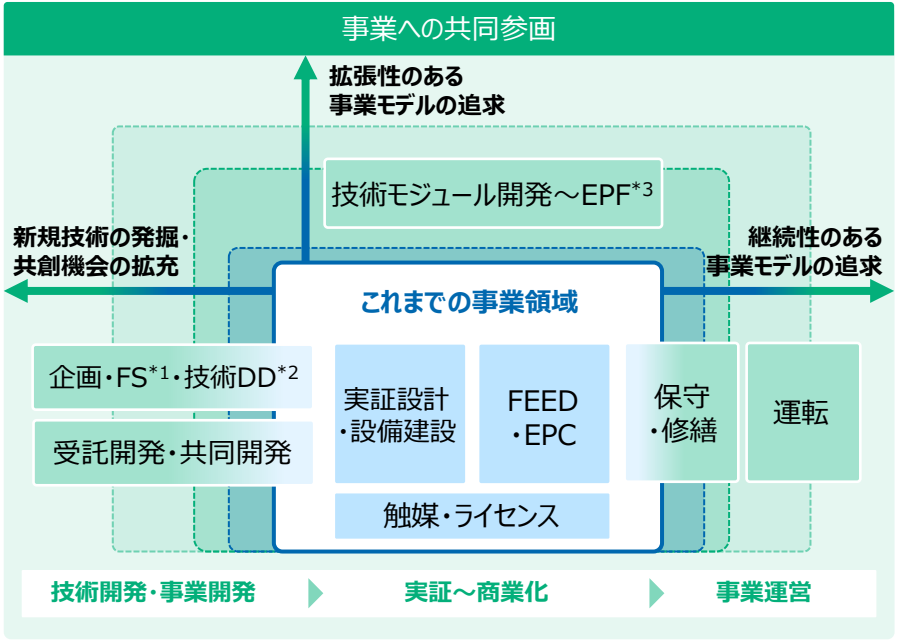
© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.

事業共創の拡充に向けた取組み方針

技術開発・事業開発のフェーズから顧客・パートナーに伴走し、エネルギー・ライフサイエンス分野における新規技術の社会実装に貢献すると共に、事業の成長を当社にも取り込み、収益多様化を実現。

事業共創による収益多様化

→：収益多様化の方向性



事業共創の拡充に向けた取組事例

トヨタとの水電解システム共同開発

受託開発・共同開発
技術ﾓｼﾞｭｰﾙ開発～EPF

水電解装置
（高集積化されたトヨタ製水電解スタック群）

大規模水電解システム
（当社によるスマート・スケーラブルエンジニアリング）

ニッピ・産総研・大阪大学との共同研究 植物による高度修飾タンパク質の大量生産技術の開発

受託開発・共同開発

ラボレベルのバイオファウンドリ → 宿主植物・導入遺伝子の選定・構築 → 生産プロセスのバイオファウンドリ → 生産性向上・スケールアップ → 社会実装・事業化

技術開発を目的としたスタートアップ企業への出資

保守・修繕　運転

SENSYN ROBOTICS　Basetwo

高い技術力を有する国内外のスタートアップに出資を行い、O&M分野における協業・事業開発を加速

事業パートナー探索力及び事業開発力強化を目的としたベンチャーキャピタルへの投資

企画・FS・技術DD
事業への共同出資

dnx ventures

脱炭素×DX分野のスタートアップ企業発掘に強いDNX Venturesを活用

*1 FS：Feasibility Study（プロジェクトや新規事業の実現可能性を評価するための調査）
*2 DD：Due Diligence（技術の成熟度や商業化の可能性を評価するための調査）
*3 EPF：Engineering、Procurement、 and Fabrication（設計、調達、製造）

CHIYODA CORPORATION

© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.

事業環境／事業戦略　エネルギーと素材（LNG、石油・石油化学 ）

海外LNGは、大型案件の着実な遂行を通じた商材・ビジネスモデルの多様化を推進。
国内は、強固な顧客基盤を更に強化。

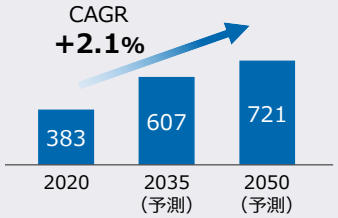
事業環境

↗：高い　↗：やや高い　→：横ばい

LNG

エネルギー安定供給とカーボンニュートラルに向けた移行期に欠かせないエネルギー

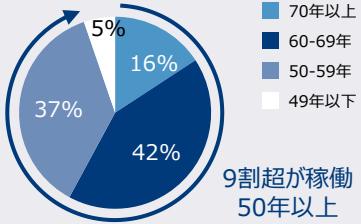
世界 LNG消費量（百万t）



石油・石油化学

エネルギー源としての需要は横ばいだが、プラント老朽化に伴うプラントの建替えや運用保守需要は旺盛

国内製油所稼働年数 (N=19)



9割超が稼働
50年以上

事業戦略

注力領域と強み	取組内容
■プロジェクトマネジメント力 ■世界屈指のLNG EPCコントラクターとして積み上げてきたノウハウ・技術力	■リスク管理の徹底により受注済みの海外大型LNG案件（NFE/GPX）を確実に遂行 ■Cleaner LNG、電動駆動LNGへの対応 ■プロセス設計等、得意分野を切り出した提案
■世界各国における石油・石油化学プラント建設及びO&Mの豊富な実績 ■強化な顧客基盤	■グループ総合力を強化し、国内の設備投資需要を取り込む ■石油・石油化学領域の設備の高度化や強靭化への取り組みを強化

出所： McKinsey「Global gas outlook to 2050」より世界のガス消費量のうちLNGのシェアから消費量を算出、石油連盟「製油所の所在地と原油処理能力」および各製油所HPより国内製油所それぞれの稼働年数を調査

© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.

事業環境／事業戦略　エネルギーと素材（脱炭素ソリューション）

SPERA水素™・水電解装置の差別化技術を梃に、水素・炭素循環技術の早期実装に貢献。

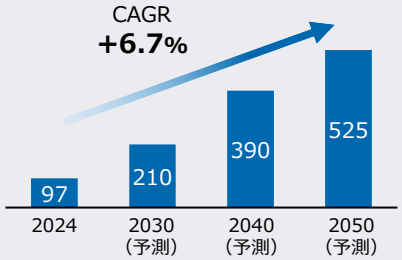
事業環境

↗：高い　↗：やや高い　→：横ばい

脱炭素ソリューション ↗

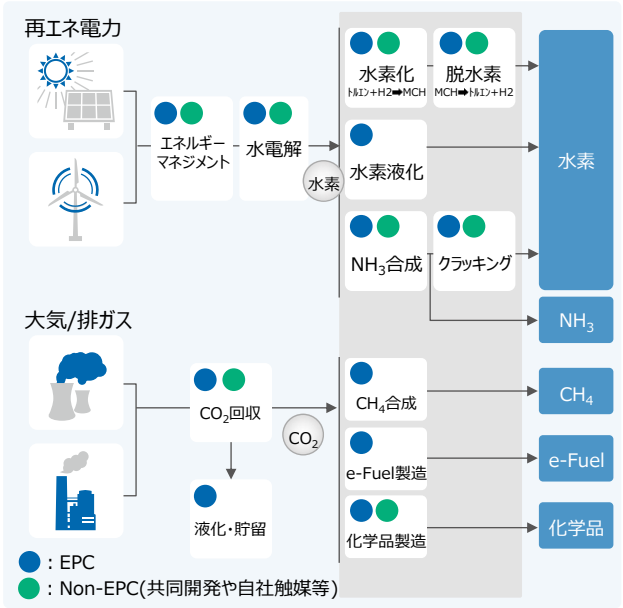
脱炭素化ニーズの高まりや、補助金・制度設計など政府の支援を背景に需要は旺盛

世界 水素需要量
（2050年ネットゼロ排出シナリオ）　（百万トン）



事業戦略

グリーン製品バリューチェーンと当社重点領域



取組内容

Non-EPC

水電解システム（モジュール・O&M）
・SPERA水素™等の水素事業

地域エネルギー供給事業

収益多角化

差別化に寄与

EPC事業

国内　海外

クリーンエネルギー関連の差別化技術により、FSや試験・実証プラントEPCから商業プラントEPCを継続獲得

出所：IEA「Global Hydrogen Review」

© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.

事業環境／事業戦略　エネルギーと素材（LNG+脱炭素）

LNG技術+脱炭素

CO_2排出が少ないCleaner LNGの実装を牽引すべく、タービンの電動駆動、CCS併設等を拡充。

Cleaner LNGの実績

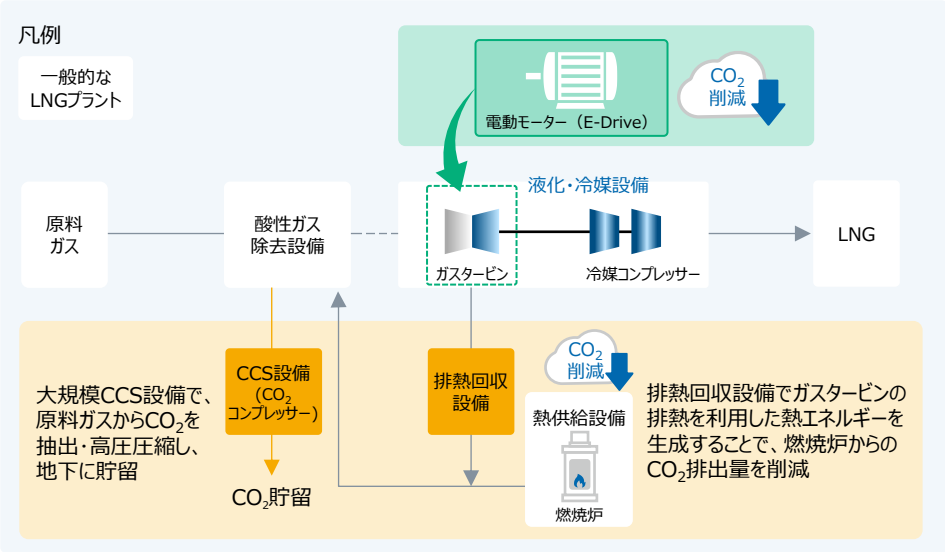
■ **LNGプラント×タービンの電動化 (米国)**

液化・冷媒設備内で、従来のガスタービン駆動式ではなく、電動モーター駆動式（E-Drive）を導入することで、CO_2排出量の48%削減を達成

■ **LNGプラント×CO_2回収・貯留 (中東)**

大規模CCS設備・排熱回収設備の導入により、操業時のCO_2排出量を削減

Cleaner LNGの取組事例



© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.

事業環境／事業戦略　エネルギーと素材（金属・先端素材）

注力エリア毎に当社のケイパビリティを活用し、EPC事業を中心に各種検討業務、PMC*、及びO&Mへ事業展開。

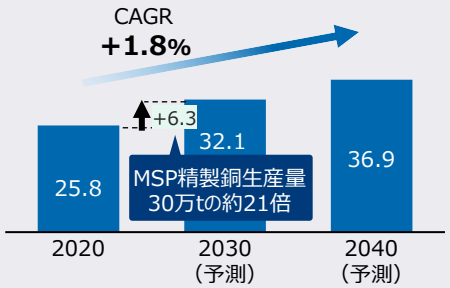
事業環境

：高い　：やや高い　：横ばい

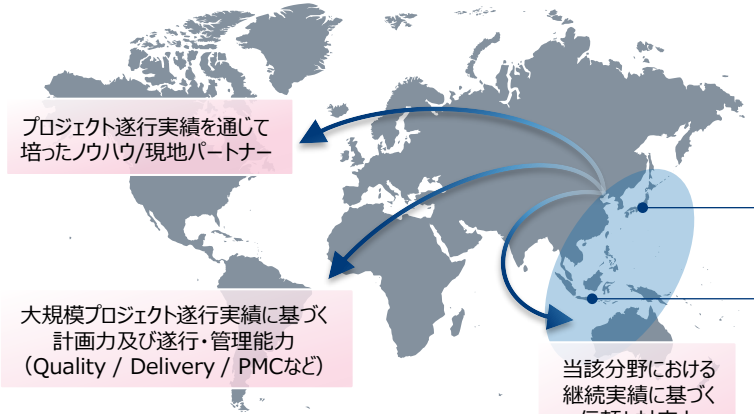
金属・先端素材

銅やニッケル等の重要鉱物の需要が高まると共に、経済安全保障の観点から、半導体・電池素材等の国内生産・安定供給の需要が拡大

世界 銅需要　（百万t）



事業戦略



チタン製錬プラント@日本

リチウムイオン電池の
基幹素材生産設備@日本

銅製錬プラント@インドネシア
（世界最大規模）

：当社注力エリア

：各エリアに参入するにあたって活用するケイパビリティ

出所：IEA「Critical Minerals Date Explorer」よりAnnounced Pledges Scenarioの需要を集計
*PMC: Project Management Consultancy

© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.

事業環境／事業戦略　ライフサイエンス

付加価値の高いバイオ・ライフサイエンスソリューションプロバイダーを目指し、培ってきた技術力及びパートナーとの共創により事業領域を拡大。

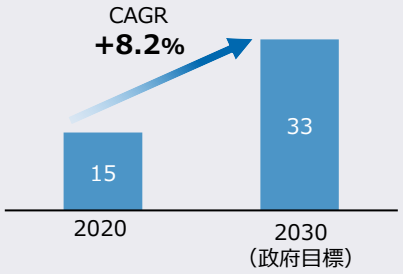
事業環境

↗：高い　↗：やや高い　→：横ばい

ライフサイエンス ↗

開発・製造プロセスの分業普及や、
バイオ医薬品・遺伝子/細胞治療の拡大

**国内 バイオ医薬品・再生医療等
関連産業市場 政府目標**　（千億円）



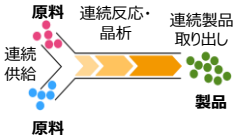
事業戦略

●：EPC　●：Non-EPC

医薬

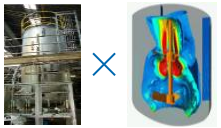
- ●● 低分子
- ●● 中分子

石油化学領域での連続生産技術の知見



- ●● 高分子
- ●● 細胞
- ●● 微生物バイオ

医薬品領域で培ったスケールアップノウハウ



非医薬

- ●● 植物バイオ

産官学、パートナー企業と共同開発する培養プロセス技術

Non-EPC

植物バイオファウンドリ
CRDMO（高分子/細胞医薬）

収益多角化

差別化に寄与

EPC事業

- CXOとの連携を強化し、バイオ・低分子・中分子の需要を取り込む
- 高密度培養を強みに培養槽事業を拡大
- 微生物培養デジタルツイン、バイオラボ構想の導入から案件創出

出所：内閣府「バイオ戦略フォローアップについて」

© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.

事業環境／事業戦略　O&M-X ソリューション

CXOと共にEPCやメンテナンスで培った知見と最新のデジタル技術を活用したO&M変革ソリューションを提供。

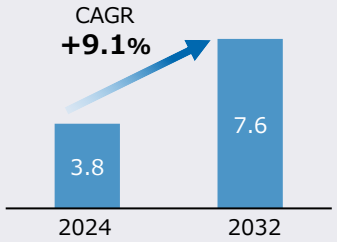
事業環境

↗：高い　↗：やや高い　→：横ばい

O&M－Xソリューション

AI等技術の進展により、デジタルを活用した
保守・保全の需要は旺盛
プラント老朽化に伴い、
国内のフィジカルサービスの需要も堅調

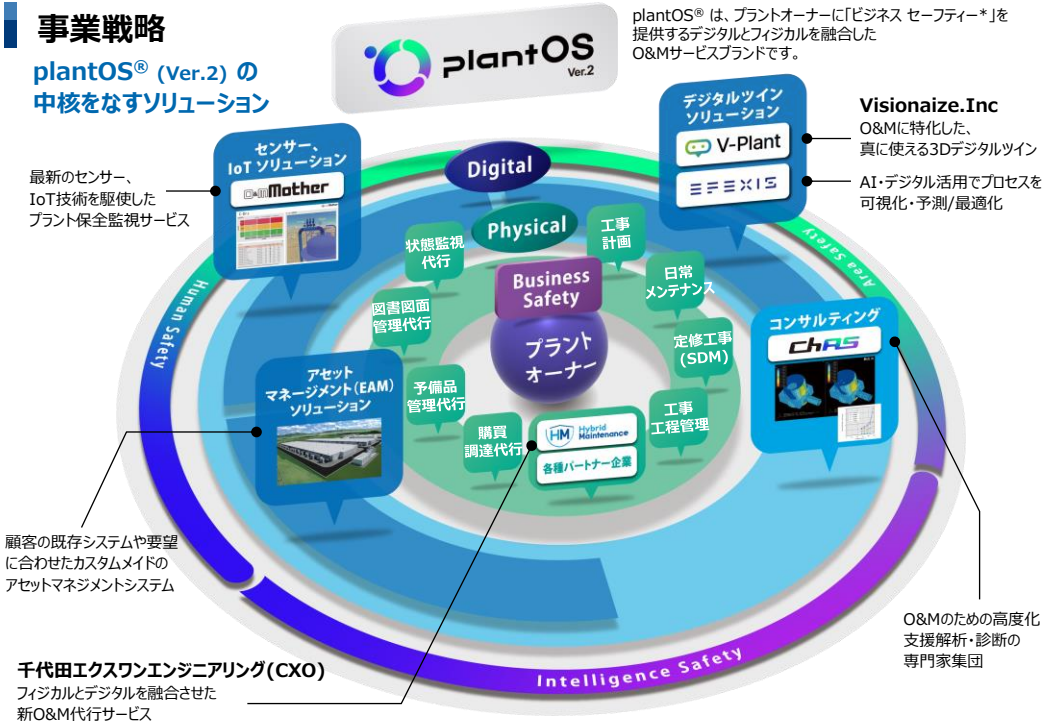
世界 予知保全市場　（10億 USD）



事業戦略

**plantOS® (Ver.2) の
中核をなすソリューション**

plantOS® は、プラントオーナーに「ビジネス セーフティー*」を提供するデジタルとフィジカルを融合したO&Mサービスブランドです。



出所：Marcket Research Intellect「Condition Based Maintenance Systems Market」
*ビジネス セーフティ：「環境変化、社会変化に柔軟に適応し、ビジネスを維持・継続できる、安心安全な企業活動」を意味する千代田化工建設が提唱する概念

© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.

全社DXで目指す姿

一人ひとりが業務プロセスをデジタルで変革、情報共有により生産性向上。会社経営、組織運営、プロジェクト管理への情報伝達を加速、即時の意思決定・適切なリスクコントロールを実現し収益を倍増。

コーポレートDX

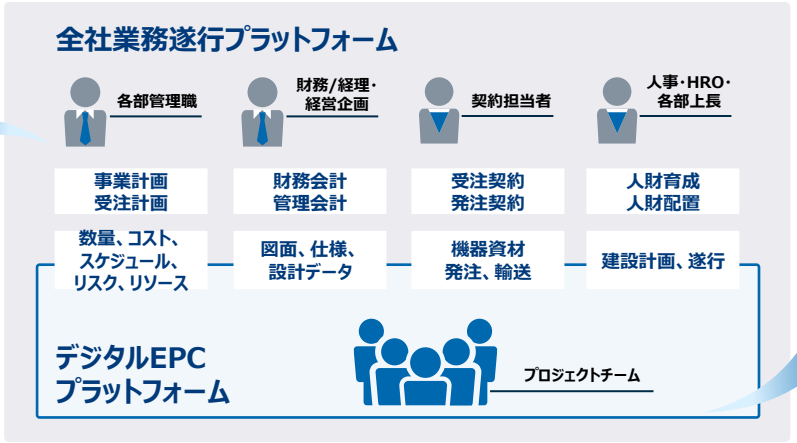
エンタープライズビジネスマネジメント
全ての業務をデジタル変革・ERPに連携し、迅速な収益予測・リスク管理を実現

リソースマネジメント
事業・受注計画と人員配置を連携し、適正稼働と利益の最大化を実現

タレントマネジメント
個人のキャリアパスと事業貢献をマッチングさせ、戦略的人財開発を実現

常に最新化・構造化されたデータを基に、
経営の迅速な意思決定と精緻なガバナンスを実現

経営層



全社業務をプラットフォーム上で遂行することで、いつでもどこからでも最新の情報を即時確認・利用可能へ

プロジェクトDX

プロジェクトマネジメント・工事管理
プロジェクト遂行情報の連関と予実を可視化し、プロアクティブなプロジェクトマネジメントを実現

機器資材調達
プロジェクトのサプライチェーンで情報を効果的に共有し、確実な現場への資機材供給を実現

設計遂行
設計のプロジェクト遂行計画への影響を可視化し、コンカレント設計*の更なる最適化かつ効率化を実現

＊ コンカレント設計：関連する複数の専門設計や機器調達を同時並行で進め、顧客の要求納期までに設計を収束させ、プラントを完成させる手法

© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.

© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.